

腫瘍内科専門医に聞く

腫瘍内科部長

かしい たつひこ
菓子井 達彦



本年4月に腫瘍内科に赴任しました菓子井 達彦と申します。「腫瘍内科」というのは聞きなれないかもしれませんが、わかりやすく言うと「がん患者さんに快適に最適な治療を受けていただくお手伝いをする内科」と理解していただくと良いかと思えます。



日本人は、2人に1人ががんにかかり、3人に1人ががんによって亡くなるとされており、避けては通れない病気の一つとなっています。がんの治療には、手術療法、放射線療法、薬物療法がありますが、腫瘍内科では主に抗がん剤治療などの薬物療法を担当します。薬物療法には、以前からあるがん細胞を直接攻撃する「抗がん剤」やがん細胞の特定の遺伝子を標的として攻撃する「分子標的薬」があります。また、最近新しく使われるようになったお薬として「免疫チェックポイント阻害薬」というものがあります。人間には、もともとがん細胞を異物と見なして排除しようとする免疫の力が備わっています。がん細胞は、そのような免疫から逃れて生き延びるために、免疫チェックポイントと呼ばれる抑制機能を活用しています。これを抑えて人間が本来持っているがん細胞を排除する力を取り戻すのが免疫チェックポイント阻害薬です。

分子標的薬や免疫チェックポイント阻害薬は、残念ながら誰にでも効果があるわけではありません。また、従来の抗がん剤とは異なった副作用にも注意が必要です。高い効果を得るためには、がん細胞の遺伝子やタンパク質などの特徴を調べて最適な治療を選択していくことが重要です。腫瘍内科では、主に肺がんの薬物療法を担当し、副作用対策や最適な検査による治療法の選択によって、がん患者さんに質の高い医療を提供することを目指しています。肺がん以外のがんについても、それぞれのがんの担当診療科の医師と連携して副作用対策などに積極的に関わっていきます。

がんは決して恐ろしい病気ではありません。がんにかかっても患者さんが前向きに病気と向きあえるように精一杯お手伝いをしていきたいと思えます。

発行：独立行政法人労働者健康安全機構富山労災病院 地域医療連携室

富山ろうさい病院だよりは、当院ホームページにも掲載しています。

【連絡先】0765(22)1280(病院代表)

E-mail：chiiki2@toyamah.johas.go.jp